

# 「死への不安に及ぼす宗教関連意識の効果」

神戸学院大学大学院  
人間文化学研究科  
松田茶茶

## 『死を研究する領域』

- ・医学 ,
- ・倫理学 ,
- ・教育学 ,
- ・宗教学 ,
- ・**心理学** ,
- etc...

個人がもつ , 死に対する態度 = 多面的・包括的な概念

- ・**不安** ,
- ・恐怖 ,
- ・抑うつ ,
- ・受容 ,
- etc...

(Spilka, Stout, Minton, & Sizemore, 1997; Thorson & Powell, 1988, 1989; Wong, Reker, & Gesser, 1994)

## 『“死の不安”とは・・・』

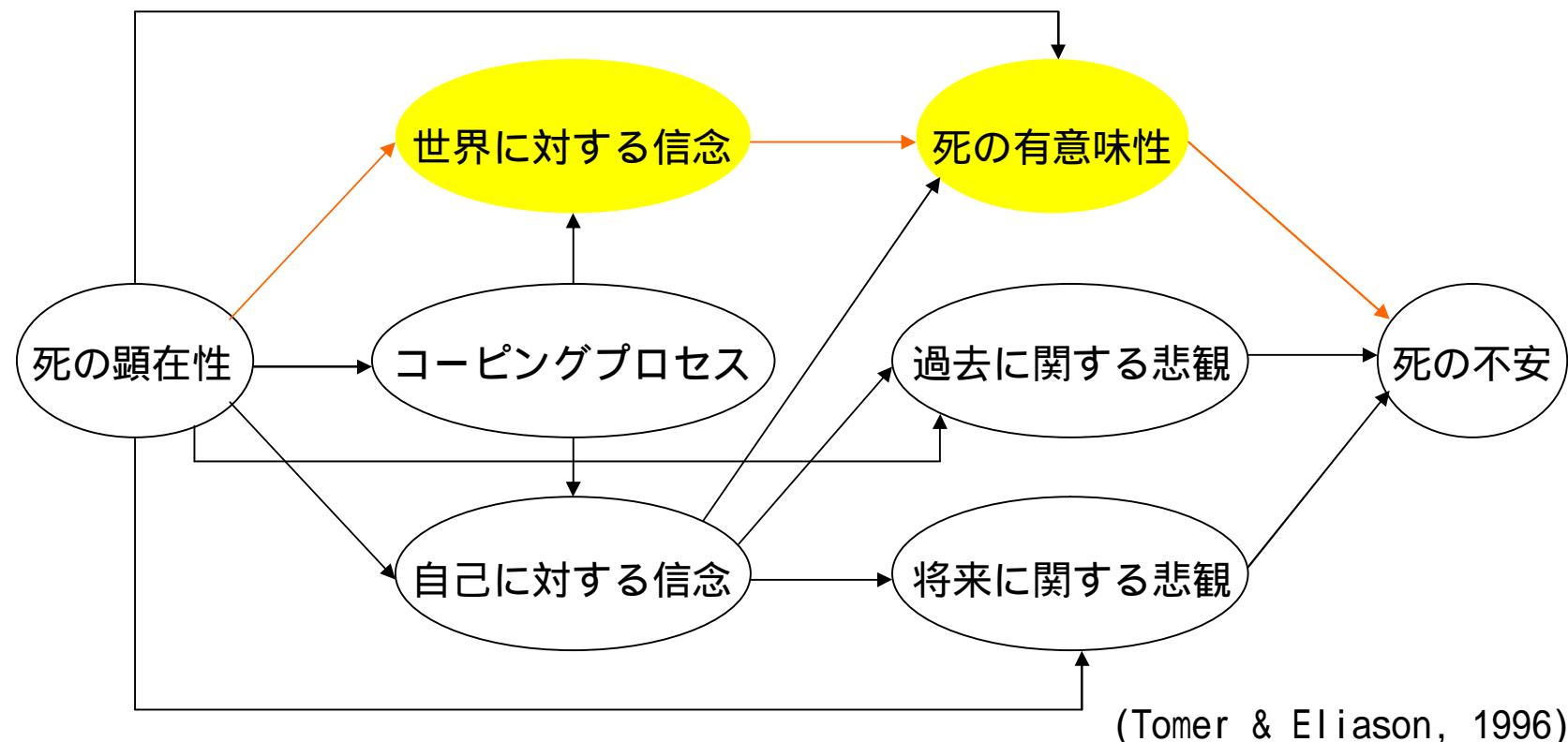
性格特性や心理的不適応 , リスク行動と強い関連をもつ .

(Conte, Weiner, & Plutchik, 1982; Cox, Borger, Asmundson, & Taylor, 2000; Frazier & Foss Goodman, 1988-89; Maltby & Day, 2000; White & Handal, 1990-91)



デス・エデュケーションや健康教育に寄与する役割を大きくもつ要因

## 『“死の不安”形成モデルより』



・死の不安の構造は、文化的、宗教的な特性を強くもつ。

(Florian & Kravetz, 1983; James & Wells, 2002)

・宗教属性の異なる集団を対象に、死の不安に関する調査を行なうと、得られた結果には差異が認められる。

(松田, 2003; 岡村, 1983; 丹下・坂口, 1987)

## 『“死の不安”と“宗教関連意識”の関係性(1)』

### § Florian & Kravetz(1983)

- ・宗教信仰レベルの高い者 「自己消滅」に関する死の不安が有意に低い。  
(対象: ユダヤ系キリスト教男子学生と士官学校男子学生178名(18~30歳))

### § Young(1992)

- ・宗教信仰レベルの高い者 「死は懲罰だ」と考える傾向が有意に低い。  
(対象: プロテスタント, カトリック, ユダヤ系キリスト教, 無神論のいずれかに属する1228名(18歳以上))

### § Jeon(1997)

- ・キリスト教徒 死の不安が有意に低い(非キリスト教徒と比較)。
- ・礼拝参加率の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。
- ・聖書を読む頻度の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。
- ・お祈り頻度の高いキリスト教徒 死の不安が有意に低い。

(対象: 韓国陸軍兵士118名)

死の不安が有意に低い。 (キリスト教徒内で比較)

### § Roshdieh(1997)

- ・宗教にまつわる信念・行動の高い者 死の不安が有意に低い。
- ・宗教にまつわる信念・行動の高い者 死にまつわる抑うつが有意に低い。

(対象: イスラム教徒大学生)

## 『“死の不安”と“宗教関連意識”の関係性(2)』

### § Swanson & Byrd(1998)

- ・内発的宗教信仰の高い者 死の不安が有意に低い。
- ・内発的宗教信仰の高い者 「懲罰である死」に対する恐怖が有意に低い。

(対象: 大学生70名(19~30歳))

### § Clements(1998)

- ・内発的宗教信仰の高い者 「未知なる死」に関する死の不安が有意に低い。

(対象: 高齢者45名(65~87歳))

### § Thorson & Powell(2000)

- ・内発的宗教信仰の高い者 死の不安が有意に低い。

(対象: 地域住民346名(18~88歳))

### § James & Wells(2002)

- ・死にまつわる迷信(言い伝え)に対する信心の高い者 健康不安が有意に低い。  
↑この関係性は、ローマカトリック教徒 > 無神論者

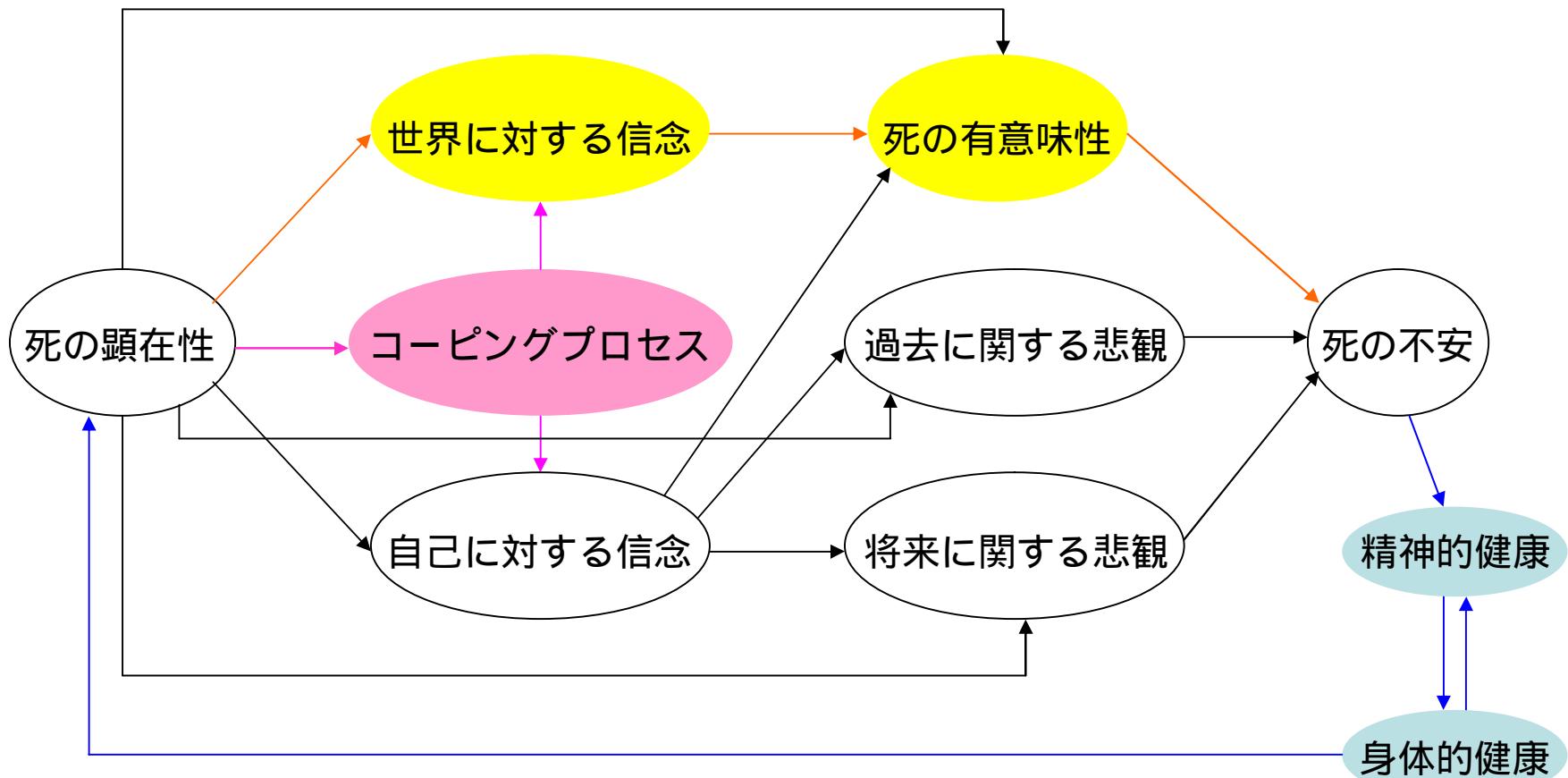
(対象: ローマカトリック教徒と無神論者303名(18~79歳))



宗教的態度と死の不安は、負の関連をもつ。

(自己の属する宗教への信仰が内発的であり、宗教行動の頻度が高いと、死の不安が低減される。)

## 『以上の研究知見のもつ意義』



ここでコーピングプロセスとは・・・

- ・自己の人生の概観：回想により、過去の矛盾を統合し、自我の完全性や満足を高める。
- ・人生設計：人生の主たる目標の熟考と再定義により、現実自己と理想自己との差を縮める。
- ・**自己の文化の同一化**：文化や、価値をおく基準の達成との同一化により、自尊心を高める。
- ・**自己超越プロセス**：世界観や統一体(宇宙)についての考えを発達させ、自己の消滅を受容する。

人間の健康を考えるうえで既に重要視されているコーピングに加え，そのコーピングが直接作用する，あるいはコーピングプロセス自身に内包される，宗教にまつわる意識(宗教から得られる信念)が，健康にとって非常に大きな意味をもつ．

宗教が人間の健康側面において，直接的あるいは間接的にもたらす影響(貢献)がどれほどの大ささをもつかを明確化することとなる．

デス・エデュケーション，健康教育，ストレス・マネジメント等の方略として組み込む際の，1つの指針となる可能性への示唆．

ご清聴、有り難うございました。

